

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月22日

【評価実施概要】

事業所番号	3771700832
法人名	社会福祉法人豊中福祉会
事業所名	グループホームとよなか
所在地	香川県三豊市豊中町笠田竹田697-1 (電話) 0875-56-6260

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年10月3日	評価決定日	平成19年11月22日

【情報提供票より】(19年 9月 14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	4月	28日
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	15人	常勤	13人、	非常勤 2人、常勤換算 14.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	2,000円+実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月14日現在)

利用者人数	16名	男性	1名	女性	15名
要介護1	7名	要介護2	2名		
要介護3	7名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.7歳	最低	70歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	香川井下病院、大塚歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑の田園地帯に創設されたこのグループホームは、施設長の理念方針が明確で、管理者、職員ともそれを十分熟知し、入居者一人ひとりの立場に立ち、その方本位のきめ細かいケアを実践している。一人ひとりの出番を大切にしており、調理一連をする人、掃除をする人、洗濯物をたたむ人等、入居者自身が明るく和やかな雰囲気の中で生活をされている様子がうかがえる。「笑顔、まごころ、思いやり」を中心として、家庭生活と同じような当たり前の生活を目標に、施設長、管理者、職員の頑張りが伝わってくるグループホームであり、今後の活躍が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では生活空間づくり、ケアサービス、運営体制の分野で、いくつかの改善課題があった。施設長、管理者、職員全員で共有し、改善項目シートを用いて、具体的な解決策に取り組んでいる様子がうかがえる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価委員会を通じて職員全員で自己評価に取り組み、自ら今後取り組んでいきたい項目を明らかにし、実践していこうとの意欲がうかがえる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>事業所からサービスの実際や外部評価への取り組みを報告し、活発な意見交換がなされている。特に、地域との交流については、住民も一緒に勉強会に参加することを、運営推進会議でアドバイスいただいたので、ぜひ実現して欲しい。また、市町との関係は、少しずつではあるが深まりつつあるので、今後は事務所の方から積極的に関わっていくことが望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時や月2回の状況報告シートを送付し、家族の知りたい時に、知りたい情報を報告して、意見をいただいている。家族等から得られた情報は記録し、職員全員が共有して運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩や喫茶店に出かけた時などは、地域の方々や気軽に挨拶をしたり、声をかけるようにしている。また、事業所主催の一日レストランには、地域の方々がたくさん来られている。幸い、運営推進会議には自治会長、民生委員会、老人会会長の方々に参加しており、この会議を通して、地域との関係が深まり、地域に密着した事業所として更なる発展を期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		これまでの理念に加えて、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域との関わりを深める理念を作りあげている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		毎朝の申し送り時に、管理者、職員全員が理念に触れており、利用者との関わり時にも確認しあい、共有化が図られている。
2. 地域との支えあい				
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		文化祭へ利用者の作品を出展して見学に行ったり、喫茶店へ出かけたり、また、事業所内でレストランを開いて地域の方を招く等、地域の方々と交流することに努めている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		運営者、管理者、職員とも、サービス評価の意義を理解しており、評価委員会を立ち上げて、全員で自己評価に取り組んでいる。また、改善項目シートを作り、職員全員で話し合い、質の向上に努めている。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		会議では、事業所からサービスの実際や外部評価の取り組み、地域との交流についての報告や話し合いを行い、ホームの役割が理解され、協力していただけるよう前向きに取り組んでいる。

外部	自己		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長は、要請があれば、地域の集まりに講師として参加している。また、時々、事業所側から相談に行つて、情報をもらっている。今後は、もっと積極的に連携を深めて、サービスの質の向上に努めたいと前向きな様子が見える。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回の家族会の時や面会時には、必ず報告をしている。また、毎月2回、状況報告シートを作成し送付している。必要時には、電話報告もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、面会時には意見をいただくようにしており、意見箱を設置したり、外部へ表せるよう、第三者苦情申し立て機関を紹介している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の定期的異動があるが、最小限にとどめ、引継ぎ期間を十分に取り、スムーズに移行できている。また、家族には、家族会や面会時に、早めに報告をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パート職員も含め、段階的に外部研修に参加して、研修終了後は事業所内で報告をしている。内容は文書化して、参加できなかった人は、必ず目を通して、サインをするシステムになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長と管理者は、グループホーム協議会に参加して、情報を得てサービスの向上に努めているが、職員の同業者との交流は見られない。	○	施設長は、同じ市内の同業者との交流を深めたいと前向きである。早期に連絡会等の機会を設け、職員の研修や交流を持ち、サービスの質の向上に励まれることが期待される。

外部	自己	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居調査に訪問したり、本人や家族に事業所へ見学に来てもらうことから始め、初期段階から職員と馴染みの関係を作り、安心感を持って利用できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は共に暮らす利用者のこだわり、不安、喜び、楽しみ等、本人の思いを共感し、理解している。また、ほとんどの利用者にて得意とする分野で力を発揮してもらい、感謝をする関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、言葉や表情から本人の思いを汲み取ったり、家族から情報を得たりしたことを記録し、職員は共有しており、本人の立場に立って検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向、希望、要望を聞いて、職員全員でカンファレンスを行い、気づきや意見、アイデア等を活かし、実情に合った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとにモニタリングを行い、定期的な見直しを行ったり、利用者の状態の変化や本人、家族の要望に応じて、その都度見直しを行い、新たな計画を作成している。		

外部	自己	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は、必ず職員が付き添うことを原則としている。また、美容院や買物等の個別にでかける支援等は、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、受診時には、必ず職員が同伴して、情報を得るように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族とは十分話し合っているが、かかりつけ医などを含む話し合いは、行われていない。	○	できるだけ早い段階から、本人、家族、かかりつけ医等と話し合い、方針の統一を図り、職員全員が共有できるように文書化しておくことが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はみられない。職員は、個人情報保護法を理解し、記録類の保管についても秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、利用者一人ひとりが自分のペースで過ごしており、職員は本人の気持ちを尊重して、柔軟に支援している。		

外部	自己	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者はメニュー作り、買物から始まり、調理、食事、あと片づけ等、一連の行為を職員と一緒に楽しく話し合いながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日、希望する時間に入浴していただいている。また、利用者同士で翌日の順番を決めている。現在、夜間入浴を希望する利用者はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、洗濯物たたみ、掃除等、一人ひとりの得意分野で力を発揮してもらっている。編物の好きな方は、文化祭に作品を出展する等の楽しみを持っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は、毎日、午前中に近くへ散歩に行き、季節の移ろいを感じてもらっている。一人ひとりの希望に添って、喫茶店や買物に行ったり、自宅の近くまで行く等、個別的な外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けて、毎月1回会議を開いたり、勉強会を行い、職員全員が身体拘束のデメリットを理解しており、鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力のもと、利用者も参加して災害訓練を行い、避難経路の確認等を行っている。地域の方々には、運営推進会議で協力をお願いしている。		

外部	自己	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量については、毎日チェック表に記録して、職員全員が共有している。また、職員は、利用者一人ひとりの食べ物、飲み物の好みや苦手なものを把握しており、日頃の様子を観察しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、全て自然光を取り入れ明るく、季節の花が飾られ、居心地よく過ごせている。また、調理をする音、ごはんの炊ける匂い、静かな心地よい音楽等、五感の刺激が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベッドや整理ダンス以外は、利用者が家庭で使用していた馴染みのあるソファやテーブルが持ち込まれ、安心して落ち着ける空間になっている。		